

## <ヤングケアラー支援研究事業総括：福井>

### あわら児童家庭支援センター

ヤングケアラー事例検討会を通じて、虐待という一面的な見方ではなく、家族丸ごと支援という新しい視点でケースを見立て、ヤングケアラー支援に取り組んできた。

ある事例では、中学生の2人の姉妹を対象とし、センターでクッキング活動を企画・実施した。自らの力で美味しい料理を完成させ、料理をいただく体験は、達成感や喜びなどポジティブな情緒が生まれ、児童の人格に誇りと自信をもたらし、自尊感情を高めることに繋がる尊い経験であった。家庭にもお土産を持って帰り、家族全体が食事面での潤いと活力を得て元気になってきている印象を受けた。またこのような体験活動を経て、最近では困難や失敗に直面しても、柔軟に考え工夫をして乗り越えるなど、気持ちや精神面も逞しくタフになってきている。本事業によって、スタッフ（大人）と出会い、スタッフが見守る中で料理を進め、会食時には会話が弾み、コミュニケーション力を高める機会をつくることができたことに感謝したい。

### 児童家庭支援センター一陽

今年度、本事業を実施できたことで、外国ルーツのヤングケアラーの生活実態に、より深くコミットすることができた。彼らの家庭では、妹や弟の面倒を見るのは日常茶飯事のことであり、日本語通訳のために学校を休んで官公署や病院に付き添うことも当然のこととされている。また自分の就学費のためにアルバイトを強制されることも少なくない。さらに外国ルーツのヤングケアラーの中には、親の仕事（転職）の関係で、わずか10年余りの内に十数回の引っ越しを経験しといったケースもあり、地域コミュニティ内での生きづらさ（孤立や漂流）が浮き彫りとなった。

このような深刻極まりない課題を目の当たりにし、（外国籍市民の割合が5%を超える基礎自治体に所在する）児家センター一陽としては、外国ルーツの子どもたちの支援に本腰を入れて取り組みたいと決意を新たにしているところである。

### おくえつ児童家庭支援センターめぐみ

今年度本事業に参加させていただき、本当にありがとうございました。

今回3家族の支援を担当させていただき、その成果として以下の点をご報告いたします。

#### 1. ニーズの表面化

経済的に困窮したご家庭の場合、これまでは必要な物や事をお聞きしても「大丈夫」という発言が多く、「我慢」や「諦め」で過ごされていると感じることがありました。「他人の世話になりたくない」との思いもあったのではないのでしょうか。

今回予算を付けていただき、食品や日用品などをお届けできたことで、ご本人やご家族から「あれが欲しい」「これが必要だ」との発言が少しずつ増え、「本当はこれが欲しい

かった」「やりたい」と表現して下さることが多くなり、それまで出しておられなかったニーズが表面化してきたように感じました。

## 2. 意欲の向上

「要望を実現する」という経験ができたことで、ご本人やご家族と相談支援職員との関係がより良くなり、お子さまの将来について考える発言が増える等、ご家族全体に意欲の向上や明るさを感じるが多くなりました。

お子さまご本人にも、改めてご自分のことを考えていただく良い機会となりました。